

江津駅前プロジェクト ～江津の新たなデザインを～

－2年間の取り組み－

住居環境科 竹口 浩司

Project in front of Gotsu Station ～New design of Gotsu～

－Two-year initiative－

Koji TAKEGUCHI

概要 島根県江津市のまちづくり会社株式会社石州あかがわらの代表から江津駅前ビルを含む江津駅前の新たなソーシャルデザインを考えて欲しいとの相談を受けた。それを課題とし2017、2018年度の2年間、総合制作実習として取り組んだ。2017年度は、江津駅前の商店会など関係者とのヒアリングやアンケート調査からランドデザインを考え、ソーシャルデザインを含めた新江津駅前ビルの計画を行った。2018年度には、江津駅前ビルの空き店舗をリノベーションし、ソーシャルデザインを基にした一つのコンセプトを持ったチャレンジショップを完成させた。

1. はじめに

2017年初旬、まちづくり会社石州あかがわらから老朽化が進む江津駅前ビルを江津駅周辺のソーシャルデザインを踏まえ、地域のランドマークとなる商業施設を建築したいとの考えを知り、総合制作実習で取り組むこととした。

江津駅前ビル（通称：軍艦ビル）は昭和42年に竣工された5階建てのRC造である。（図1）人口流出や車社会に伴う郊外化が進む中、店舗数も減り現在1階部分の15店舗中7店舗が空き店舗となっている。



図1. 江津駅前ビル

2. ヒアリング・アンケート調査

江津駅周辺のソーシャルデザインや新江津駅前ビルを計画する為ヒアリングやアンケート調査を行った。江津駅前ビルの情報や江津駅周辺の課題、要望をランドデザインに落とし込んだ。（図2）

2.1 ヒアリング調査

江津市役所、商店街、建築関係者とのヒアリングを通じ、多くの課題点や要望が上がった。その中でも、江津は過疎化が進み、若者が都会に流出する為、若者の賑わいが欲しいという要望や、日中営業しているお店が少ないという課題がみえた。

2.2 アンケート調査

2017年11月に行われた新江津市庁舎ワークショップの場で一般の方を対象としたアンケート調査を行った。ヒアリング調査と同様賑わいが欲しいという意見が多く江津ならではの物を活かしながら、多くの人が集まれる空間が求められている。

3. 新江津駅前ビル設計

新たな江津駅前ビルの設計を行い、単に商業施設として計画するのではなく、江津駅前の地域課題や駅周辺のランドデザインを考えた計画を立てる事にした。

3.1 ターゲット

江津を盛り上げるのは10代~30代であり、人口流出を防ぐためにこの世代が楽しみ、更に若者が集い賑わい、チャレンジできる場所を提供する。

3.2 コンセプト

江津市は、日本三大瓦のひとつ石州瓦の産地であり、昔は登り窯で作られていた。その登り窯のイメージと、現江津駅前ビルの面影を残した新しい中にも懐かしさを感じる新駅前ビルとする。

更に山と海が繋がる場所で、江津市庁舎の旧市街と新市街を繋げる場のように、人と人、食、物、学びが繋がる場として空間を表現した。(図3)

3.3 江津らしい街並みの提案

新江津駅前ビルでは江津の素材を中心に考える。屋根は石州赤瓦を葺き、北側の開放された屋根の裏側には地松を使用する。外壁は釉薬を施したタイルを壁一面に張り、樋や配管は筒状の焼き物で覆い素材の統一美を表した。内装には、壁から床にかけて土壁を全面に施し、部屋の中いながら自然の土に包まれ、癒す空間を表現した。これらを踏まえ、江津らしい街並みをこの新江津駅前ビルで提案する。

3.4 平面計画

老若男女多くの人が集まり賑わえるようなカフェと本屋を2階中央に配置し、チャレンジショップ、インバウンドとしてのゲストハウスを計画した。ヒアリングやアンケート調査等を踏まえた若者の解釈として具現化させた。(図4~8)

新軍艦ビルとも呼ぶこのビル(船)が多くの人、物と交わり、繋がり、発展していくことで、江津市の未来を導く建物となる。



図2 ヒアリング・アンケート調査結果

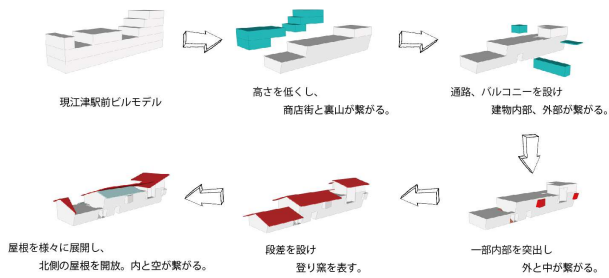


図3 ダイアグラム

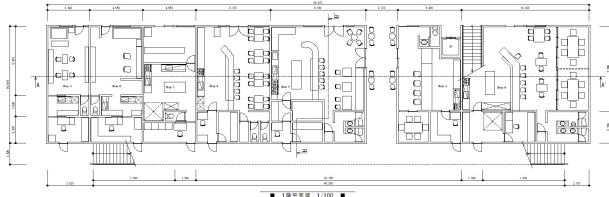


図4 1階平面図

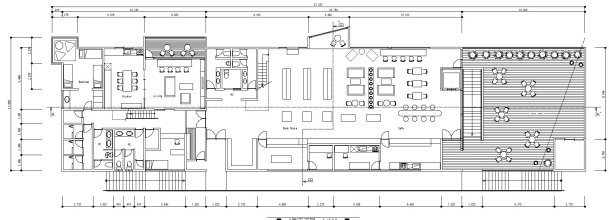


図5 2階平面図

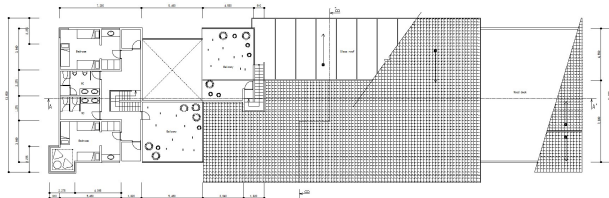


図6 3階平面図



図7 断面図



図8 CG パース

4. 模型

図面を基に新江津駅前ビルを中心とし、江津駅から商店街を含めた駅周辺を1/100の模型で製作した。素材としてシナ合板を使用し、木工技術を活かした模型製作を行った。(図9,10)

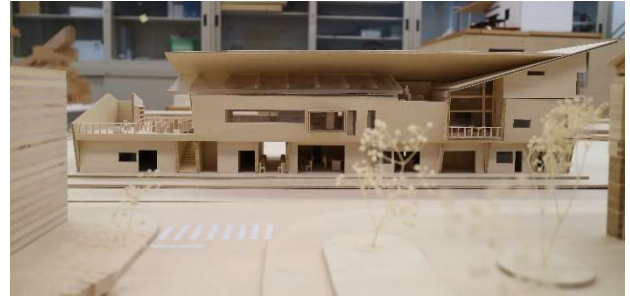


図9 新江津駅前ビルの模型



図10 駅前全体の模型

5. 2018年度チャレンジショップ

2018年度は、空き店舗をチャレンジショップへとリノベーションを行った。2017年度のソーシャルデザインを基に江津の素材と活かしたコンセプトショップを完成させた。更に、江津らしい街並みの提案として他の2店舗の外装の改修も行った。

素材採集や人の繋がり等完成に至るまでのプロセスも重要であり、ホームページやブログ、SNS等を利用して広報活動も行った。

5.1 コンセプト

「MADE IN GOTSU」をコンセプトに、地域素材を活かすことに重点をおいた。

島根県みーもの森づくり事業²⁾の一環として県産材を使用すると共に、江津の素材を内外装に多く取り入れ、素材を活かしたデザインを考えた。江津は多くの素材が溢れており、それらをいかに融合し空間を創出するかを思案した。

5.2 解体作業

仕上げに利用できる間仕切壁の下地や天井野縁を残し、外装や天井、什器の解体・撤去を行った。



図 11 解体前

図 12 解体後

5.3 仮設工事

1年間の作業を想定し作業の利便性、また街行く方に見てもらいやすいように入りが大きくとれる仮設壁を県産の針葉樹合板で製作した。(図 13)



図 13 仮設壁

6. 江津の素材と加工

中山間地域だからこそ残っている素材や知恵、人の繋がりによる江津の素材を自ら採集し、仕上げ材として利用できるよう加工を行った。

6.1 柿渋

2018年7月に樹冠ネットワークにご協力いただき中山間地域だからこそ残っている知恵と刀根柿(図 14)で柿渋を製作した。へたを取りハンマーで細かく砕き、それを2、3時間ほど水に浸し、絞れば完成である。(図 15)



図 14 刀根柿



図 15 完成写真

6.2 瓦タイル

Design Office SUKIMONO 敷地内にある旧石州陶苑で製造され廃棄されていた瓦タイル(図 16)の再利用を試みた。それは4枚が1つになって焼かれていたもので、一枚ずつ割り、水で洗浄し使用できる状態にした。(図 17)



図 16 廃棄状態

図 17 瓦タイル

6.3 土

江津では古民家の空き家が多く存在する。それを資源とし都野津町にある解体される民家(図 18)で土壁の土をいただき、それをハンマーで砕き、ふるいにかけて小石や藁などを取り除いた。(図 19)



図 18 古民家の土壁

図 19 土

6.4 和紙

江津は昔からコウゾが栽培され、和紙の産地であった。9月に桜江町の風の国で石州勝地半紙に出向き、80×80cmを40枚漉いた。(図 20, 21) 枠は仕上げ寸法に合わせて事前に製作した。



図 20 和紙剥き

図 21 石州勝地半紙

6.5 竹

竹は昔から建築に欠かせない素材である。10月に江の川沿いにある金田ふれあいセンターの竹林に行き、真竹を150本採取した。節を抜き、重曹をいれた熱湯で油抜きを行った。(図 22, 23)



図 22 竹



図 23 油抜き



図 27 パレット



図 28 粉碎瓦

6.6 流木

日本海に面する江津市江の川河口付近には多くの流木がある。(図 24) そこで独特な形をドアの取手に使用した。



図 24 江の川河口

6.9 古瓦

江津市は、石州瓦の産地であり古くからの瓦が残っている。江津本町の築 100 年を超える蔵で使用されていた瓦を頂いた。(図 29, 30)



図 29 解体現場

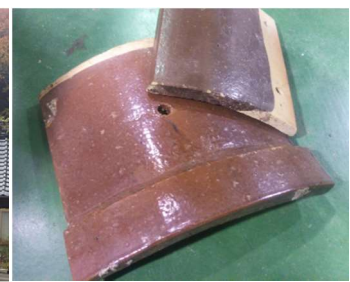


図 30 古瓦

6.7 えごま油と蜜蝋

桜江町にあるスプラウト島根より販売できないえごま油を頂いた。(図 25) えごま油は、浸透性の油でありそのまま木材のオイルフィニッシュとして使用が可能である。

蜜蝋はビジネスプランコンテストのファイナリストとして新たに養蜂を営む波子町の藤さんを伺い 2018 年にとれた蜜蝋を頂いた。(図 26) 蜜蝋はえごま油と湯煎してワックス状に加工し、什器の保護に使用する。



図 25 えごま油



図 26 蜜蝋

6.8 運搬パレットと粉碎瓦

株式会社丸惣にご協力頂き、瓦を運搬するパレット (図 27) と規格外の瓦の再利用として粉碎された瓦を頂いた。(図 28)

6.10 広葉樹

江津市は天然林も多く広葉樹が多く残っている。近年のバイオマス発電所も稼働し、森林の需要も増えてきている。播磨屋林業にその切り出された広葉樹を頂いた。



図 31 木材場



図 32 広葉樹

7. 施工と仕上げ

7.1 内壁

コンクリートの既存壁に胴縁を付け、えごま油を塗った木材の胴縁を取り付けた。この胴縁は棚を付けるため溝を付けた。棚は、蜜蝋ワックスで仕上げ、自由に使えるよう可動式とした。

壁は 8 段になっており、材料は全部で 5 種類あり、段の寸法はタイルの割り付けと棚の寸法を考慮した。左官作業は江津の職人に教えて頂いた。

下から2段目は瓦タイル。パテ埋め後、タイルの割り付けを行い、一枚ずつ接着剤で圧着し、最後に目地埋めを行い仕上げた。

4段目は土壁。土壁は調達した土に藁を入れ風合いと強度を出し、2cmの厚塗りですり出しで割れが出るように仕上げた。

6段目は漆喰。漆喰は江津本町の街並みとして多く使用されているため採用した。

8段目は石州勝地半紙。和紙一枚だとパテが透けて見えてしまうのでコウゾ紙を袋貼りし、その上に漉いた和紙を貼り仕上げた。

下から奇数段と階段の横と下部は下地に県産材の針葉樹合板を使用し、厚さと長さの異なる県産木材の杉板をランダムに貼りオイルフィニッシュで仕上げた。(図33)



図33 内壁仕上げ

7.2 天井

漉いた和紙、竹、古材で仕上げた。Design Office SUKIMONO より頂いた米松の柂目長押材を柿渋で塗装し、ダボでふたつを固定する際に間に漉いた和紙を挟み仕上げた。その間には二本の竹をフックでぶら下げた。(図34)

天井照明は、竹の間にダクトレールを見えづらいうように配置してスポットライトを設置した。メイン照明は、壁側にウォールライトとして壁面と和紙を照らし出すよう考慮した。

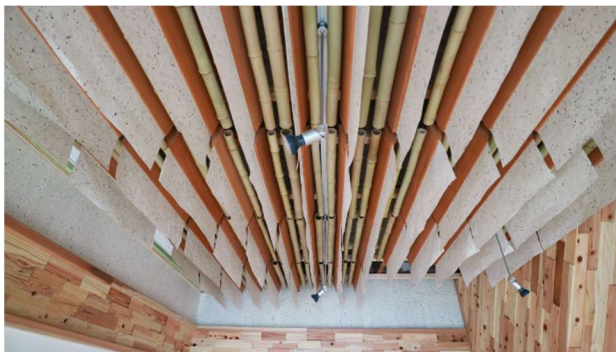


図34 天井仕上げ

7.3 床

コンクリートの床に根太を固定し合板を貼り、仕上げは平行四辺形と三角形の県産杉板を寄木張りした。壁との隙間には粉碎瓦を敷き詰め、壁との取り合いを埋めた。(図35)

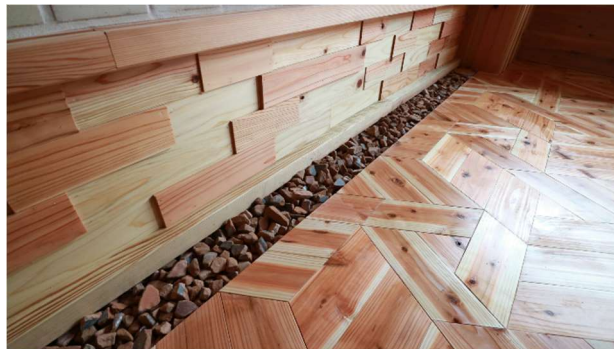


図35 床仕上げ

7.4 什器

パレットの形を活かしながら机とカウンターを製作した。塗装には、蜜蝋ワックスを使用した。フロア照明には広葉樹の丸太をくり抜き光が漏れるデザインとした。(図36)



図36 内装仕上げ

7.5 外装

下地として合板を斜めに張り、その上にアスファルトルーフィングをタッカーで貼り付けた。杉板を真鍮釘で留め、柿渋で仕上げた。デッキには桧を使用した。

建具はビジネスプランコンテストのファイナリストである、まる木工所にお問い合わせ。枠材は貴重な地松を使用し、取手には、流木を使用した。

外装に杉、松、桧を使い分け木の違いがわかるデザインとした。傘置きとして石見焼きのはんどを設置した。

照明には左右に古瓦を使用し、足元には広葉樹の照明を設置した。(図37)



図 37 外装

7.6 その他の外装

街並みの提案として他2店の空き店舗の外装のみの改修を行った。江津の素材を活かした街並みの提案と少しでもシャッターを開放し、江津駅前ビルの活性化を促す目的である。

B店舗は既存のサイディング壁を解体し、柿渋を塗装した杉板と竹を使ったザインとした。また、入口には、解体した民家から頂いた古材を使用している。(図38)

C店舗は、既存のガラス張りを活かし、柿渋を塗装した県産杉材を斜めに配置し格子状のデザインとした。(図39)



図 38 B店舗



図 39 C店舗

8. おわりに

本活動は、地域情報誌やテレビ、新聞等各メディアに取り上げられ3月13日に行ったお披露目会では、2社のテレビ局で放送、新聞には3紙に掲載された。2019年4月からチャレンジショップは、商工会議所と連携し利用者の募集を行う。また、2019年度は、2階をリノベーションし、ワークショップスペースとする予定である。今後、1階のチャレンジショップと2階のワークショップの相乗効果が図れるものと期待している。

都市と離れ、日本海と山に囲まれた江津は、開発が遅れているのは事実である。しかし、だからそこ残っている豊かな素材がある。上記の他にも、江津産の苔をインテリアグリーンとしても取り入れている。中山間地域だからこそ、今でも残る昔の知恵や素材、素材採集から行うことで地域の方と繋がりを持つことができ、それを通じて多くの方に素材の豊かさを知ってもらいたい。県産木材と江津の素材を集約したこのチャレンジショップに様々なものが集まり発信していく場となってほしい。

江津のソーシャルデザインとして2年間の取組を通じてランドデザインから新たな江津のシンボルとなる商業施設を計画し、素材を活かしたチャレンジショップで実際に形にした。それが一つの課題解決のデザインとして今後の江津の街並みに取り入れられることを願う。

最後に、各調査や素材提供、活動を見守っていただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

文献

- 1) 江津駅前ビルのリノベーション HP
<https://gunkabiru.amebaownd.com>
- 2) みーもの森づくり事業
https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/ringyo/mizumori/mizumori/mi-mo_mori/

著者 E-mail Takeguchi.Koji[j]eed.or.jp